

Future Earth アジア太平洋地域プログラム

SIMSEA (Sustainability Initiative in the Marginal Seas of South and East Asia) 報告

山形俊男

国内関係

1. 第 24 期においても地球惑星科学委員会 SCOR 分科会 (ISC の下に置かれている Scientific Committee on Oceanic Research(海洋研究科学委員会)の国内対応体) の下に SIMSEA 小委員会を設置 (設置提案書、委員名簿を添付)。
2. 日本海洋政策学会のへ課題研究 (平成 26 年 10 月—28 年 9 月)「SIMSEA の科学的基礎」(ファシリテータ:山形俊男)の成果を日本海洋政策学会誌第 7 号 (2017 年 11 月発刊)の研究ノートに「SIMSEA の科学的基礎の確立に向けた戦略的取り組み」(森岡優志ほか 8 名)として出版。

国際関係

1. 2017 年 11 月 20 日 SIMSEA Steering Committee 会合 をクアラルンプールで開催。ICSU ROAP の新事務局長 Mazlan Othman 氏 (宇宙物理学が専門) の挨拶に続き、SIMSEA 新事務局長 Rhodra Azanza 氏 (フィリピン大学名誉教授) の下で、SIMSEA の事業計画、SC メンバーの拡充、第二回 SIMSEA 地域シンポジウムの企画などについて協議。SC メンバーは Lourdes J. Cruz (ICSU RCAP 委員長、フィリピン)、Marie Antonette Juinio-Meñez (フィリピン)、Dongxiao Wang (中国)、Fadzilah Majid Cooke (マレーシア サバ州)、Nordin Hasan (前 ICSU ROAP 事務局長、マレーシア)、山形。
2. 2018 年 7 月 25 日 SIMSEA Steering Committee 会合をマニラで開催。Rhodra Azanza 氏がフィリピン科学技術アカデミー (NAST) 総裁に選任されたが、SIMSEA 事務局長は継続。この会合では、a) SIMSEA Charter を作成する、b) 社会学者を SC に加える、c) 第二回 SIMSEA 地域シンポジウムを 11 月 19 - 21 日にマニラで開催し、その折の Steering Committee 会合でメンバーの新旧交代を行う (Cruz, 山形、Hasan は創設メンバーに)、d) Belmont Forum の募集に応募する (ASEAN 島嶼の歴史を踏まえ Nusantara を主題とする)、e) 2019 年 4 月に北京で開催される International Conference on Silk-roads Disaster Risk Reduction and Sustainable Development に SIMSEA セッションを設け、Steering Committee 会合を同時に開催する、f) 2019 年 9 月 23-25 日に富山で開催される SCOR 年会のシンポジウム時に SIMSEA を紹介するなどの事項を決定。

その他

Lourdes J. Cruz 氏がフィリピンの NRCP (National Research Council of the Philippines) 及び NAST (National Academy of Science and Technology) を代表して DOST (Department of Science and Technology) に申請していた Development of a Future Earth Philippines Program (FEPP) が認可され初年度として 1600 万ペソ (約 3200 万円) の予算が付いた。ここでは Philippine Knowledge-Action Programs for Sustainability (PKAPS) を推進するが、Philippine SIMSEA はこの中の主要プログラムになっている。

地球惑星科学委員会 SCOR 分科会 SIMSEA 小委員会 (22 名)

平成 30 年 2 月 22 日現在

役職	氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
	古谷 研	創価大学大学院工学研究科教授、東京大学特任教授	第二部会員
	植松 光夫	東京大学大気海洋研究所教授	連携会員
	張 勁	富山大学大学院理工学研究部教授	連携会員
	山形 俊男	国立研究開発法人海洋研究開発機構特任上席研究員、京都大学特任教授、東京大学名誉教授	連携会員
	あん・まくどなるど	上智大学大学院地球環境学研究科教授	
	磯辺 篤彦	九州大学応用力学研究所教授	
	岩滝 光儀	東京大学アジア生物資源環境研究センター准教授	
	遠藤 愛子	大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所准教授	
	郭 新宇	愛媛大学沿岸環境科学研究センター教授	
	川辺みどり	東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科教授	
	小松 輝久	横浜商科大学商学部教授	
	斎藤 宏明	東京大学大気海洋研究所教授	
	ナスリーン・アジミ	UNITAR (国連訓練調査研究所) 広島事務所シニア・アドバイザー	
	仁藤 雅夫	エコロジーカフェ理事長	
	古川 恵太	公益財団法人笹川平和財団海洋政策研究所海洋研究調査部長	
	牧野 光琢	国立研究開発法人水産研究・教育機構中央水産研究所グループ長	
	宮崎 信之	東京大学名誉教授	
	宮澤 泰正	国立研究開発法人海洋研究開発機構アプリケーションラボ所長代理	
	森岡 優志	国立研究開発法人海洋研究開発機構アプリケーションラボ研究員	
	八木 信之	東京大学大学院農学生命科学研究科教授	

	柳 哲雄	公益財団法人国際エメックスセンター特別研究員	
	脇田 和美	東海大学海洋文明学科准教授	

※◎は委員長、○は副委員長、△は幹事とする。

※構成：25名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者

地球惑星科学委員会 S C O R 分科会小委員会の設置について

分科会等名：S I M S E A 小委員会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	地球惑星科学委員会
2	委員の構成	25名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者
3	設置目的	<p>アジア・太平洋の「縁辺海」は、東シナ海や南シナ海など、豊かな自然の恵みを沿岸諸国に与えてきたが、経済発展の著しい国々に囲まれ、海洋環境の劣化と資源を巡る政治的紛争の荒波に揉まれている。関係諸国にとって「利害を共有する大切な海」を科学的知見のもとで調和的に守る必要性が急速に高まっている。特に東アジアの縁辺海沿岸域には多くのメガシティが存在し、世界の経済、産業活動の主要なエンジンであるが、気候変動による異常気象や極端現象の影響を強く受け、食料、水、災害、健康など、人間安全保障を脅かす深刻な課題を抱えている。国際科学会議（ICSU）のアジア太平洋地域委員会（RCAP）は、このような「縁辺海」の重要性に鑑み、関係諸国の科学者のネットワークを強化し、持続可能な海洋環境の保全に向けて、フューチャー・アース（Future Earth）を支援する地域プログラムとして「SIMSEA: Sustainable Initiative in Marginal Seas of South and East Asia」を立ち上げ、2014年7月にフィリピン大学内に事務局を開設した。国際SIMSEA計画の重要性に鑑み、本小委員会は国内対応体として機能することで、アジア太平洋地域における先導的な役割を果たすことをめざす。</p>
4	審議事項	<p>1. SIMSEA計画に係る国内研究、国際連携研究の推進 2. SIMSEA計画に係る国内研究・国際連携研究の交流促進 3. SIMSEA計画とその成果の広報</p> <p>に係る審議に関すること</p>
5	設置期間	平成30年1月25日～平成32年9月30日
6	備考	※事実上23期からの継続